



青森県防災若手人材育成事業 ～青中央高防災プロジェクト～



青森県立青森中央高等学校
教諭 山口 香

1 はじめに

青森市は大災害に見舞われることが比較的少なく、防災意識は高いとは言えません。この課題解決は学校教育の使命と考え、「総合的な学習の時間」に防災研究を取り入れました。

2 平成 28 年度の取組

防災及び男女共同参画教育で有名な小山内世喜子氏の指導を仰ぎ、災害時における自助と共助の大切さ、多様性配慮の必要性等についてのワークショップを実施し、さらに、県防災危機管理課の事業でセミナーに参加し、県庁の災害対策本部で研修を受けました。2年次 194 人を 47 班に分け、47 テーマについて研究し、これをまとめて作成したハンドブックは 166 ページにもなりました。



避難所の安らぎを色で作る美術系列のプレゼン

3 平成 29 年度の取組

県防災アドバイザーの山口大学大学院の瀧本浩一先生に平成 28 年同様、防災の講演をしていただきました。県防災士会とも連携し、徒手搬送、応急処置講習や、クロスロードゲーム、講演会を実施。青森大学の留学生に各国の防災事情等についてインタビューしました。ハンドブックは 20 テーマ、124 ページになりました。



留学生へのインタビュー
「どんな防災グッズを用意していますか？」

4 平成 30 年度の取組

総合的な学習の時間は、全員が一つのテーマで研究するのではなく、各教員の専門ごとのゼミに希望する生徒が集まる形式になり、我が防災ゼミには 13 人が集結し、小山内さんと、県防災危機管理課とともに、夏休み中に避難所開設・運営訓練を計画。4 回のワークショップを



受付の様子

実施し、自分達は何ができるかについて考え、話し合いました。当日は、市役所、県関係者、近隣町会自主防災組織の方々など総勢 50 人が参加しました。学校に隣接するイトーヨーカドー青森店の防災担当の方が、お客様を誘導する想定で参加してくれました。また、支援物資として飲料も提供してくださいました。

初めて会う様々な年代の方々と協働して訓練所運営訓練を経験したゼミ生は、大きく成長しました。また、総合学科の全国大会で発表し、高い評価をいただきました。その感激を胸に地域に出て「防災まちあるき」として学校近隣の安全調査をしました。教職員、生徒全員対象のアンケートによる防災意識調査も実施。その結果をもとに、震災の記憶を風化させず更なる理解を深めるために、「東日本大震災メモリアル」を開催。防災グッズ、非常食、そして復興支援プロジェクト「復興の狼煙」のポスターを展示するとともに、再利用紙をつなげて、実際に各地を襲った津波の高さを再現。防災クイズの回答者にチョコレートと命を守る行動の



津波タペストリーを2階からたらして

チラシを渡しました。津波タペストリーを見たある生徒は「やべえ」と言って絶句。災害を人ごとではなく、「自分ごと」として感じてもらえた一瞬でした。

5 終わりに

「生徒の命と安全なきところにあらゆる教育活動はなし」が私の信念です。生徒は卒業後、どこに住むかわかりません。日本であれ外国であれ、災害の可能性の高い低いに限らず、どこで災害に遭遇するかわかりません。どこにいても、自分の命は自分で守り、大切な人を守る大人になる。そのために、小中高と切れ目ない防災教育が絶対に必要です。未来を担う生徒が、防災を日常とし、世代を超えた多くの人々と防災知識や経験を共有し、自分達にできることを考え、試行錯誤していくことこそが、地域社会の未来創生につながると信じています。